

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成 24 年度第 3 回情報教育研究委員会大学入試小委員会 議事記録

- I. 日 時：平成 24 年 11 月 1 日 (木) 午後 3 時 30 分～午後 7 時  
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会事務局会議室  
III. 参加者：村井委員長、笥委員、植原委員、久野アドバイザー、家本アドバイザー、渡辺アドバイザー  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 委員の意見

- ・ 入試の対応について、合格基準の作成は学科や大学に依存するため、多様な難易度の入試問題の提案が必要ではないか。模擬試験は難易度対応はどうするのか。
- ・ 「情報」入試研究会では、入試問題の試作を作成中で 5 月に日本各地で実施を計画している。運営について私情協との関係を検討した場合、公益社団法人のため事務局窓口など事業としての対応は計画にないため対応できないが、連携や情報交換などで検討できるのではないか。大学入試小委員会の範囲は声明文までで、親委員会でも研究までの範囲で実施、活動まで入っていない。私情協から研究会へ協力、派遣、アドバイザー参加願いとして派遣する形など検討してはどうか。
- ・ 入試や模擬試験の会場や今後の活動のために、高校の情報組織について教科ごとの組織の会長や校長会などと連携を図る必要があるのではないか。
- ・ 声明文について、「情報処理能力」の記述は、「情報活用能力」に統一する。文章は、戦略なので本質的な部分での訴えが必要ではないか。
- ・ 高等学校の到達度試験について、高校には質保証がなく、狙いは到達度試験が必要で到達度試験をどうつくるかではないか。2 段階の構想として、到達度試験、ふるい分け試験になるか、高大接続に向け大学は達成度試験をベースに大学入試の達成度を図る必要があるか。
- ・ センター試験などの問題は 25 年度中に決める予定で進められている。2026 年の指導要領を受けた入試に向けた問題は、達成度評価がないことでレベル別の問題作成も課題ではないか。
- ・ 達成度試験は、学習指導要領を基準にして、大学入試のための共通基盤にならないか。入試なので大学ごとにレベルは違っていても良く、基盤となるものが必要。
- ・ 2016 年に卒業生が入ってくるので、入試に情報を入れてその対応が必要。情報教育のメッセージを含めて、高校生を巻き込んだ試験の実施が希望される。
- ・ 到達度をイメージした模擬試験、選抜入試には松竹梅のバリエーションをつくるとして、指標が必要ではないか。大学の視点でバリエーションを付けるとして分野と難易度を織り交ぜた問題が必要ではないか。他教科を視野に入れながら考えること、学習指導要領には幅広く入っている。
- ・ 到達度のマトリックスを各分野別に整理できないか。大学レベルでは私情協にガイドラインあるが卒業時点のもので、高校生を受け入れる時点での分野、学部別の要求についての資料はないが、分野別で教員に授業での情報活用能力への取組みについて調査した結果があるので参考になれば検討する。
- ・ 統計関連学会連合で、分野での統計教育の参照基準があるので参考になれば検討する。
- ・ 到達度は大学から、情報化の教育がどうあるべきか。大学の各分野で、情報の期待は何か、アドミッションとして学部 1 年生の教育で何を求めているか、そこから高校の教育の到達度が一段階膨らむと考えられる。

2. 次回の検討について

- ・ 情報処理学会と全体のデータと到達度と模擬試験と入試の関係を整理する。
- ・ 統計関連学会連合のデータから到達度に必要な情報が読み取れないか。
- ・ 私情協の分野別情報活用能力への取組み調査データから到達度に必要な情報が読み取れないか。

V. 次回の予定

- ・ 継続して議論が必要なため、11月28日（水）19時から次回開催を予定。ワーキンググループとして整理・議論をする目的で小委員会を開催する。